

研修目標： 架け橋プログラムにおける目指す子ども像や、園の研修目標等を示す

下記3点を協議で出し合いたいと思います。メモを取りながら、保育を見てください。

① 周りの人やものに興味・関心をもち、自ら働きかけたり、繰り返したりしている姿

◆誰がどこでどんなことをしていたでしょう【黄色】

★何を楽しんでいただろう【桃色】

【桃色】の根拠となる姿

自ら周りに働きかけている一人一人の姿を意識して、
具体的に（表情、動き、視線など）どのような姿だったのか
記録してみましょう。

例：Aちゃんが、外のテーブルの上に細かな砂を集めて、
息を吹きかけ、その変化を見ては、別の位置から吹き
かけ、その変化をまた見ていた。強く吹いたり優しく
吹いたりもしていた。

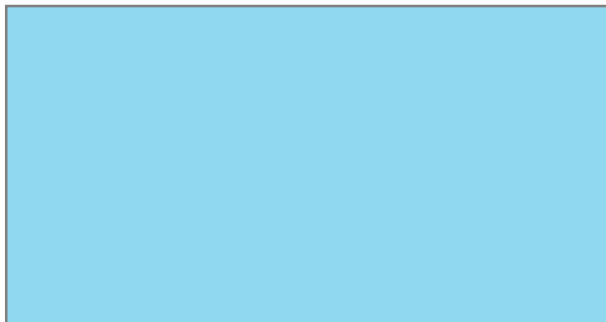
付箋は、各3枚程度貼っておき、
保育参観の前に参加者に配付
する

表面に表れた行為【黄色】から、自分なりに子どもの
内面を推し量てみましょう。

- ★何に興味・関心をもっていたのか。
- ★何を実現しようとしていたのか。
- ★戸惑っていたことやためらっていたこと。
- ★友達とどのような関わりが見られたか。 等

例：吹きつける空気の量や角度、勢いなどで、
砂の形に変化があることに気付いている。

② その姿につながった環境構成（場の構成・材料・もの）と保育者の援助【水色】



③には付箋を貼らずに、状況
に応じて、協議の中で付箋を
配付したり、話し合っ模造紙
に直接書き込む等する

③ 明日の保育につなげるためにプラスしたい環境構成と援助

（こんな環境構成や援助がプラスされると、「

」姿につながる）

架け橋プログラムにおける目指す子ども像
や、園の研修目標に基づいて、「 」に書き
入れる